

平成29年9月25日

明德小学校6年生児童の保護者の皆様

苫小牧市立明德小学校長 高 城 哲

平成29年度全国学力・学習状況調査の調査結果について

初秋の候、保護者の皆様におかれましては、ますます御清栄のことと拝察申し上げます。

また、日頃から本校の教育活動に対しまして、御理解と御協力をいただき感謝申し上げます。

さて、本年4月19日（水）に実施しました全国学力・学習状況調査の結果が本年8月に北海道教育委員会から公表され、苫小牧市でも9月に公表されました。

本調査は、学習指導要領の定着状況の把握、すなわち児童が学習内容をどの程度理解しているかを把握することとともに、調査結果の分析から児童への指導の充実や学習状況の改善等を図ることを目的としています。苫小牧市は、市全体の平均正答数及び平均正答率を公表することとしておりますが、各学校の平均正答数及び平均正答率の公表については、本調査の目的と整合が図られないこと、学校の序列化を回避することが困難であることなどの理由から、行わないとの考えが示されました。

これを踏まえて、本校の結果と考察をまとめましたので、次のとおりお知らせします。

記

1 検査の概要

(1) 実施日

平成29年4月19日（水）

(2) 調査対象

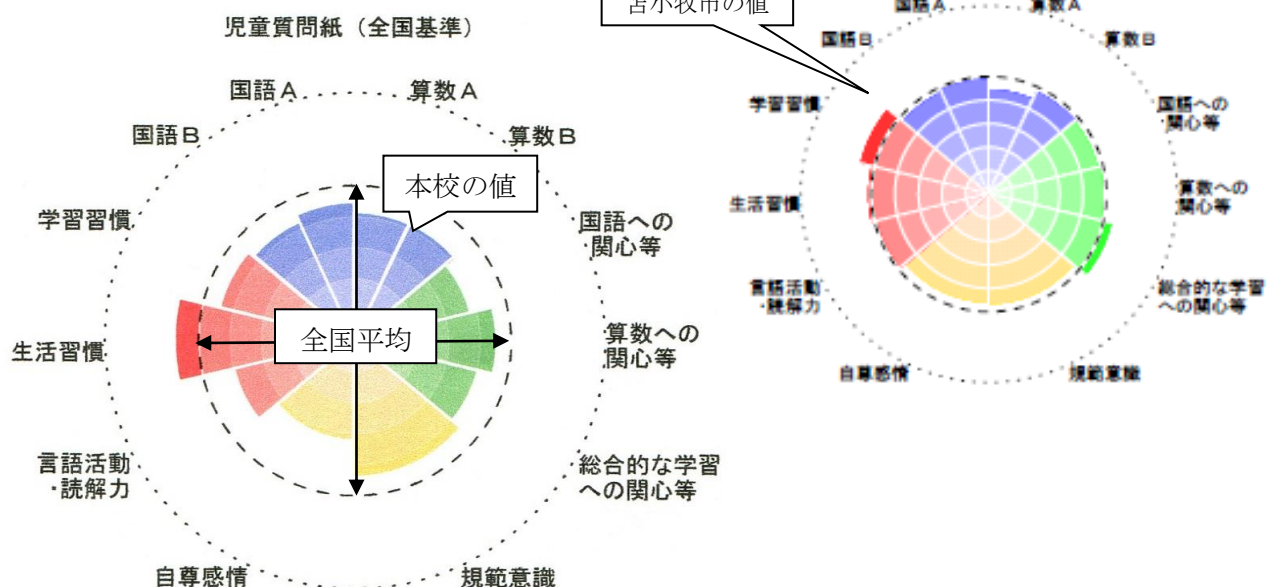
小学校第6学年（市内全小学校で実施）

(3) 検査内容等

- ① 教科に関する調査は、国語、算数の2教科が出題され、主として「知識」に関するA問題と、主として「活用」（知識・技能等を実生活の様々な場面に活用する力など）に関するB問題が出題されました。
- ② 生活習慣、学習環境等に関する児童質問紙調査が実施されました。
- ③ 学校に対して、指導方法や教育条件の整備等に関する質問紙調査が実施されました。

2 本校の結果と考察

(1) 全国平均と本校の比較



(2) 国語科

国語A

- ・国語Aにおいては、平均正答率が全国平均をやや下回っています。
- ・国語Aの正答数の分布では、上位層に厚みがあります。
- ・「話すこと・聞くこと」では、お互いの考えの共通点や相違点を整理しながら話し合うことについて全国平均を上回っています。
- ・「読むこと」では、情景を捉えて読むことについて全国平均を上回っています。
- ・「書くこと」では、手紙の構成を理解して書くことについて課題がみられます。

国語B

- ・国語Bにおいては、平均正答率が全国平均を下回っています。
- ・国語Bの正答数の分布では、上位層が薄く、中位層が厚くなっています。
- ・「話すこと・聞くこと」では、話の構成を工夫して話すこと、スピーチメモのよさを捉えることが全国平均を上回っています。一方、目的や意図に応じ、場に応じた適切な言葉遣いで話すことについて課題が見られます。
- ・「書くこと」では、目的や意図に応じ、必要な内容を整理して書くことについて全国平均を上回っています。一方、目的や意図に応じ、引用したり、整理して書くことについて課題が見られます。
- ・「読むこと」では、登場人物の相互関係や心情、描写を捉えることや自分の考えを広げたり深めたりするために発言の意図を捉えることについて全国平均を下回っており、課題が見られます。

(3) 算数科

算数A

- ・算数Aにおいては、平均正答率が全国平均を下回っています。
- ・算数Aの正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層が厚い傾向が見られます。
- ・「数と計算」では、商を分数で表すことや最小公倍数を求めことでは全国平均を上回っています。一方、整数の乗法や小数と整数の加法に課題が見られる。
- ・「量と測定」では、高さが等しい平行四辺形と三角形の底辺と面積の関係や任意単位による測定についての理解について全国平均を大きく下回っており、課題が見られます。
- ・「図形」では、立体の面と面の位置関係が全国平均を上回っています。一方で、正五角形は五つの合同な二等辺三角形で構成されていることの理解に課題が見られます。
- ・「数量関係」では、資料から二次元に分類整理することに課題が見られます。

算数B

- ・算数Bにおいては、平均正答率が全国平均を下回っています。
- ・算数Bの正答数の分布では、全国平均に比べ、上位層が薄い傾向が見られます。
- ・「数と計算」では、きまりを見つけて求め方と答えを記述することについて正答率が低く、課題が見られます。
- ・「量と測定」では、飛び離れた数値を除いた場合の平均を求める式を判断することについて、課題が見られます。
- ・「数量関係」では、目的に適したグラフを選ぶことについて全国平均を上回っています。一方で、基準量と割合をもとに、比較量を判断し理由を説明することについては課題が見られます。

(4) 児童質問紙

学校生活

- ・規範意識では、全国平均と比較し、「学校のきまりを守っている」はやや下回っています。一方、「友達との約束を守る」「困っているとき助ける」の質問で、「当てはまる」と回答した児童の割合が上回っています。
- ・自尊感情では、「最後までやり遂げた達成感」「失敗を恐れなくて挑戦する」「自分にはよいところがある」の質問で、「当てはまる」と回答した児童の割合が全国平均を下回っています。
- ・「学校へ行くのは楽しいと思う」「学級みんなで協力して何かをやり遂げ、うれしかったことがある」の質問で全国平均を下回っています。

家庭生活

- ・「早寝・早起き・朝ご飯」の定着が図られている児童の割合が全国平均を上回っています。
- ・普段（月～金曜日）、家庭学習を1時間以上行う割合が全国平均に比べ2割程度下回っています。
- ・個人差はあるものの、テレビやビデオの視聴時間、テレビゲーム（携帯式ゲーム、携帯・スマホのゲームも含む）をする時間は、全国に比べ下回っています。
- ・読書の時間や図書室等の利用は、全国に比べ高くなっています。

3 学校の今後の取組について

本検査の結果から、学習においては、国語・算数とも全国平均を下回っています。しかし、5年生のときより確かな力を付けてきています。

今後の取組としては、過日お知らせした苫小牧市統一学力テストの結果も踏まえ、指導の工夫改善に努めていきます。朝学習や少人数指導を通して、個に応じた基礎基本の定着につとめていきます。授業では、一時間一時間、「何を学ぶのか」「何を学んだのか」がわかるよう指導していきます。授業のめあてや目標を明確にし、授業の最後には振り返りをきちんとすることで学習の定着に努めるよう、丁寧な学び方に取り組んでいきます。

学習規律の定着を図り、落ち着いて学習できる環境づくりに取り組みます。ノート指導など漢字や計算など、丁寧に取り組むよう指導していきます。ノートに丁寧に学習したことをまとめることは、確かな学力につながっていきます。学習の振り返りをするときにも役立ちますし、漢字を正確に覚えたり、算数では、計算ミスなどを防いだりする効果もあります。また、算数の図形の作図では、日ごろからノートが丁寧なほど、正確な作図ができます。

家庭との連携を充実させるとともに、家庭学習の習慣化に努めていきます。